寄稿

能代高校の校歌について

35期 小野 信 継

「様々な想い出は校歌と共にあった」という同窓生も多いことと思います。能代高校の校歌は幸いなことに音楽界、文学界に名を残す二名の方によって作られました。

校歌が作られた経緯は以下のとおりであります。

大正15年9月に樽子山に新校舎が完成するので祝賀会を執り行いたい。その折りには校歌を歌い祝賀に花を添えたい、という話になった。まずは歌詞を作らなければならぬが著名な方を知っている先生はいないか能代校舎内で検討された結果、藤村作先生（東京帝大教授）にお願いできないだろうかということになった。

能代には東京帝大時代に藤村先生のご指導を受けた今福兼蔵先生がおり、作詞のお願い

をするために上京してもらった。これは大正15年7月から8月にかけてのことである。

8月に上京し、藤村先生にお目にかかり能代校歌作詞をお願いした。藤村先生は体調のこともあり、また能代のことも知らないので無理であると辞退されたのですが、再度お願いをしたところ、「引き受けましょう！」という返事をいただいたと、今福先生はその時のことを書かれております。それから三週間後に歌詞は完成。藤村先生は作曲の先生も探してくださり、東京音楽学校の岡野貞一先生に曲作りをお願いすることになった。

大正15年9月16日には校歌制定式があり、9月23日には新校舎落成式典で校歌が歌われ、能代は新しい門出をした。この時の歌詞は戦後一部改詞され、「そのかみはるか域闊く」として現在まで歌われている。母校の校歌は名曲である。国内数多くの学校があり同等の校歌があると思うが、中でも出色の校歌であると思う。

岡野先生に直接うかがう機会がなかったのは誠に残念ですが、岡野先生も「会心の出来

だ」と思っていたのではないかと推察していただきます。私は音楽を専門にする者ではありませんが、

水に我等のかぐはしき

若き生命を讃へつつ

若き生命を讃へつつ

そして二節の

み空にひびく日本海

と続く、この流れは特に好きである。

私事になり恐縮ですが、私は甲子園で2回、校歌を聞き、歌った。その時の感激が今これを書かせていると思われる。当時の硬式野球部の皆様に感謝です。また東京同窓会で聞いた清水円さんの校歌もさすがに声楽をきっちり勉強された歌だと感心すると共に、この校歌はきつちり歌うと名品になることを教えてくださいました。清水さんにも感謝です。

作曲をしてくださった岡野貞一先生の作風について一人の若い専門家の考察があるので紹介したい。

「校歌について論じる。拍子は童謡・唱歌と同じく四分の四拍子の作品が圧倒的に多い。調性に関していえばト・ヘ長調の作品が多い。また岡野作曲の尋常小学読本唱歌及び尋常小学唱歌に含まれない、ホ・変ホ・変ロ長調の作品もみられる。

この論文中採用した童謡・唱歌（注…尋常

小学読本唱歌及び尋常小学唱歌は除く)校歌の合計68曲中30曲がアフタクトで始まる作品である。これは幼少時からクリスチャンであった岡野が教会で聞いた賛美歌などの西洋音楽の影響を強く受けたということを表す証明ではないかと思われる。しかし、尋常小学唱歌と比較すると拍子・調性という点から判断して、ほんの少しであるが、自由に作曲することができた作品であったということがわかる。」

このような考察から推測すると、校歌の作曲は岡野さんに創造の自由を感じさせる時間だったのかもしれない。

ここで岡野さんの略歴を書いておこう。

明治11年 鳥取県に生まれる。

明治25年 鳥取教会で洗礼を受ける。

明治29年 高等師範学校附属音楽学校入学

明治33年 東京音楽学校研究科入学

明治38年 東京音楽学校助教授

明治40年 文部省小学校唱歌編纂員

大正7年 文部省小学校唱歌作曲委員

大正12年 東京音楽学校教授

昭和7年 東京音楽学校教官

作曲された名曲

ふるさと おぼろ月夜 もみじ 春の小川

等多数

次に、作詞をしてくださった藤村作先生について書かなければなりません。

藤村先生は、

明治8年 福岡県柳川に生まれる。

明治28年 熊本第五高等学校に入学

明治31年 東京帝国大学国文科に入学

明治34年 〃 卒業

明治36年 広島高等師範学校教授

明治43年 東京帝国大学助教授

大正11年 東京帝国大学教授

昭和11年 東京帝国大学退官

昭和11年 東京帝国大学名誉教授

ふるさと、おぼろ月夜の作詞者高野立之氏とは旧知の仲で、お二人ともに東京音楽学校で教鞭をとられていた。

藤村先生の奥様は小山作之助氏(名曲「夏はきぬ」の作曲者)の勧めで東京音楽学校に進学された方で、武蔵野音楽大学の創立者福井直秋氏とは同期ということもあり、藤村先生は武蔵野音楽大学の創立に尽力し、同大学の理事も務められた。

雪国で有名な川端康成氏と藤村作先生とは面白いエピソードがある。東大生の川端康成氏は卒業時期になっても単位が取得出来ていなかった。ある日、藤村先生の家を訪問し、単位の前借りをお願いした。藤村先生は君のようなことを言う生徒は初めてだが、後日課題はきちんと出せよ、と言って帰したそうだ。

川端氏はその課題をまだ提出していないことを何かの本に書いていた。藤村先生の寛大なお人柄を示すエピソードである。藤村先生と岡野先生がコンビで作った校歌は他に滋賀県の彦根高等学校があることがわかっていいる。何事にも夢中になれる若さ、チャレンジできる若き時代にお二人によって作られたすばらしい校歌を歌っていたことをありがたく思いつつ、筆を措くことにいたします。

本文を書くにあたっては秋元正英先生、故山木正俊先生から貴重な資料を送っていただきました。誠にありがとうございます。

学びの道を究めよや
奮へ松陵我が健児!

〈岡野貞一 参考資料〉

1 東京藝術大学百年史

東京音楽学校第二巻

2 文部省唱歌「故郷」と賛美歌

手代木俊一著

(フェリス女学院大学「待望」

第31号 1991年7月8日)

3 岡野貞一誕生百三十年記念誌

(鳥取市記念事業実行委員会)

4 岡野貞一とその時代

(出典確認できず)

〈藤村 作 参考資料〉

- 1 八恩記 (杉森女子高編)
- 2 郷土の文学 (杉森女子高編)
- 3 唱歌コイノボリ チウリップと著作権
大家重夫著 (全音楽譜出版社)
- 4 月刊 国語と国文学
第36号「芳賀矢一博士追悼号」
昭和2年2月12日号
第358号「特集藤村作博士追悼」
※「藤村作顕彰会」は杉村女子高校内に事務局がある。

〈追記〉

岡野先生が作曲された秋田県内の校歌は次のとおりです。

- 秋田鉦山専門学校
 - 秋田師範学校
 - 秋田県立金足農業高等学校
 - 秋田県立秋田北高等学校
 - 旧秋田県立鷹巣農林高等学校
- 他に白瀬中尉南極探検唱歌があります。

《岡野貞一作品集 (校歌及び寮歌)》

能代高校東京同窓会ホームページ (45期袴田邦夫編集) から作成

※は現在も歌われていることを示す ○は校名を「全国高等学校一覧」(H24年度版) で確認

※	県名	学校名	校歌制定年月	作詞者名
	北海道	○函館中部高校	大正3年11月	土井晚翠
	北海道	札幌高等女学校 (現: ○札幌北高校)	明治45年6月	吉丸一昌
	北海道	根室高等商業学校 (現: ○根室高校)	大正5年	大須賀績
	北海道	釧路高等女学校 (現: ○釧路江南高校)		
※	北海道	網走中学校 (現: ○網走南ヶ丘高校)		神原克重
	青森県	板柳尋常小学校 (現: 板柳町立板柳北小学校)		大和田健樹
	岩手県	岩手高等農林学校 (現: 岩手大学農学部)		
	宮城県	東北帝国大学工学専門部 (仙台高等工業学校校歌)	大正9年4月	土井晚翠
※	秋田県	○秋田北高校	昭和7年4月	尾上八郎
	秋田県	鷹巣農林高校	昭和4年2月	高野辰之
※	秋田県	○能代高校	大正15年9月	藤村 作
※	秋田県	○金足農業高校	昭和7年5月	近藤忠義※1
	秋田県	秋田師範学校	大正13年9月	秋田師範学校作歌 乙竹三郎校訂
	秋田県	秋田鉦山専門学校	大正10年	乙竹三郎
	山形県	旧制山形高等学校 (全寮歌)	大正11年	守谷猛雄
※	山形県	○鶴岡工業高校	大正10年4月	土井晚翠
	福島県	福島高等商業学校 (福島大学の前身)	大正13年	沼波案
※	福島県	○岩瀬農業高校		土井晚翠
※	茨城県	○結城第一高等学校	昭和7年	土井晚翠
※	群馬県	○伊勢崎工業高校	大正15年	河野省三
※	群馬県	○桐生高校	大正10年	篠崎与十郎
※	群馬県	○桐生女子高校	大正7年5月	本多亀三
※	千葉県	○千葉女子高校	大正15年	高野辰之
	千葉県	東金高等女学校 (現: ○東金高校)	大正4年11月	織本久雄
※	埼玉県	農蚕学校→川越農業高校→○川越総合高校	昭和12年10月	竹島又二郎
	埼玉県	秩父高等女学校	昭和7年	高野辰之
	東京都	東京府立第二高等女学校 (現: ○都立竹早高校)	明治40年4月	畠山 健
※	東京都	東京文化短期大学	昭和3年	山田武彦
※	東京都	○女子学院高校	昭和2年?	別所梅之助
※	東京都	○三輪田学園	大正3年	三輪田元道
	東京都	共立女子職業学校校歌 (現: 共立女子学園)	明治44年3月	下村 莢
※	東京都	東京盲学校 (現: 筑波大学附属盲学校)	明治43年11月	尾上紫舟

※	県名	学校名	校歌制定年月	作詞者名
※	東京都	中央区立泰明小学校	明治42年	武島羽衣
※	東京都	港区立白金小学校	大正5年	武笠三
	東京都	同声会会歌（現：東京芸大音楽部）		犬童球溪
	東京都	千代田区立淡路小学校		細川潤次郎
	東京都	品川区立源氏前小学校		不明
	神奈川県	神奈川工業高校	大正11年	浦井喜久道
	神奈川県	横浜専門学校（現：神奈川大学）	昭和7年4月	土井晩翠
※	神奈川県	鎌倉市立腰越小学校	大正4年10月	吉丸一昌
※	神奈川県	平塚農業学校（現：○平塚農業高校）		青木存義
※	神奈川県	上溝高校	昭和3年	鴫田恵吉
※	神奈川県	鎌倉市立御成小学校		佐々木信綱
※	新潟県	三条市立裏館小学校	昭和11年12月	種岡忠次郎
※	新潟県	加茂農林高等学校（現：○加茂農林高校）	明治41年	土井晩翠
	富山県	上市農林学校（現：○上市高校）		
	富山県	海老江尋常小学校（後の新湊市立海老江小学校：廃校）		相馬御風
	山梨県	旧制日川中学校（現：○日川高校）	大正5年4月	大須賀乙字
※	長野県	上田高校	大正11年	
※	長野県	小県蚕業学校（現：○上田東高校）	昭和7年6月	土井晩翠
※	長野県	○松本深志高校	大正11年	松原威雄
※	長野県	○小諸商業高校	大正12年10月	児玉花外
※	長野県	下高井農林学校（現：○下高井農林高校）	大正15年	高野辰之
	長野県	長野工業学校（現：○長野工業高校）		浅井 洌
	岐阜県	岐阜高等農林学校（現：岐阜大学農学部）		鈴木栄三郎
※	岐阜県	○武義高校		佐々木信綱
	愛知県	丹羽高等女学校（現：○尾北高校）	昭和2年	吉沢義則補作
	愛知県	西尾高等女学校（現：○西尾高校）	昭和11年	風巻影次郎
	滋賀県	彦根高等商業学校（現：滋賀大学経済学部）		藤村 作
	滋賀県	彦根中学校（現：○彦根東高校）校歌「湖べの春」	大正12年5月	澤村専太郎
	京都府	府立第一高等女学校	大正12年以後？	猪熊夏樹
※	大阪府	梅花学園	昭和3年	清水千代
※	大阪府	○北野高校	大正4年	土井晩翠
	大阪府	帝国学園		
※	兵庫県	○甲南高等学校	大正15年	土屋卓二
	兵庫県	旧制姫路高等学校（現：神戸大学の前身）		土井晩翠
	鳥取県	鳥取高等女学校（現：○鳥取西高校）	大正13年	松下政蔵
	鳥取県	鳥取高等女学校 翠紅会歌（同窓会の歌）	昭和11年	山内とし
※	広島県	福山工業学校（現：○福山工業高校）		植村貞章
※	愛媛県	松山市立味酒小学校	昭和5年	林 古径
※	愛媛県	大洲市立菅田小学校		福居義之助
	香川県	香川県師範学校		小川楠一
	香川県	香川県女子師範学校		青井常太郎 校訂芳賀矢一
※	長崎県	佐世保商業高校		古川喜久郎 補作坪井盛市
	長崎県	旧制長崎中学（現：○長崎西高校）		吉丸一昌
※	熊本県	○熊本高校	明治43年	池辺義象
	熊本県	鹿本中学校（現：○鹿本高校）	大正5年1月	本田 弘
	大分県	大分高等商業学校（現：大分大学経済学部）		市村 宏 校閲藤村 作
	宮崎県	宮崎縣農学校		土井晩翠
	旧満州	新京敷島高等女学校		野口雨情
	旧満州	天津日本商業学校	昭和11年4月	岡崎純一
	台湾	台北第二師範学校	昭和6年11月	高野辰之

- (注) 1 (※1) 近藤忠義氏は藤村作氏の長女の夫
2 初出2000年5月 能代高校東京同窓会ホームページ（情報提供：35期 小野信継氏）
3 編集：能代高校東京同窓会（以降ネット上での情報提供をもとに随時更新）